

Ⅲ. めざすべき方向性

1. 今後のみちづくりの視点

明石市の道路を取り巻く現状と課題（第Ⅱ編）を受けて、今後の道づくりに取り組むには、以下の2つの視点が必要だと考えます。

① 転換の視点 “ 「つくる」から『つかう・まもる』へ ”

これからの人口減少・超高齢化社会の進展に伴う税収の減少により、道路整備に係る財政制約はますます厳しくなっています。そのため、新しく道路をつくることに重点を置くのではなく、今ある道路を最大限に有効活用していくことが必要になります。

また、人口減少や高齢化に伴い、自動車利用者が減少することが予想されることから、自動車優先だったこれまでの道づくりから、これまで以上に歩行者や自転車に配慮した道づくりに転換していかなければなりません。

道路の維持管理においても、今後急速に道路構造物が高齢化していくことを踏まえて、これまでの対症療法型から予防保全型の道路管理に転換し、財政面においても、安全面においても、道路を長く使い守っていく必要があります。

これらのことから、今後の道づくりの視点を“「つくる」から『つかう・まもる』へ” 転換していくことが重要です。

② 進展の視点 “ これまでの取り組みをさらに『進歩・発展』へ ”

今後、超高齢化社会が進展するため、財政状況が厳しい中においても、さらなる安全・安心を確保していく必要があります。

また、環境にやさしい社会づくりがこれからますます推進されることから、自動車交通からの温室効果ガスの排出量削減などに資する、環境にやさしい道づくりを今後も進めていく必要があります。

このように、これまでにおいてもさまざまな取り組みを実施してきていますが、今後もこれらをさらに進歩・発展させ、新しい技術や工法を取り入れることにより、厳しい財政状況にあっても、必要な整備や取り組みを推進していくことが必要です。

これらのことから、今後の道づくりの視点として、“これまでの取り組みをさらに『進歩・発展』” させていくことが重要です。

2. 道の将来像

明石市の道路を取り巻く現状と課題（第Ⅱ編）及び今後の道づくりの2つの視点を踏まえて、「明石のみちビジョン」の基本理念及び計画目標となる10年後の道のあるべき姿を4つの「道の将来像」として設定しました。

① ずっと使い続けられる道

- ・自動車だけでなく、歩行者や自転車などの多様な利用者が利用しやすい道
- ・適正に維持管理・修繕が実施され、長寿命化が図られている道

② 安全に安心して利用できる道

- ・もしもの時の備えがあり、誰もが、安全に安心して利用できる道

③ にぎわいや活力を創出できる道

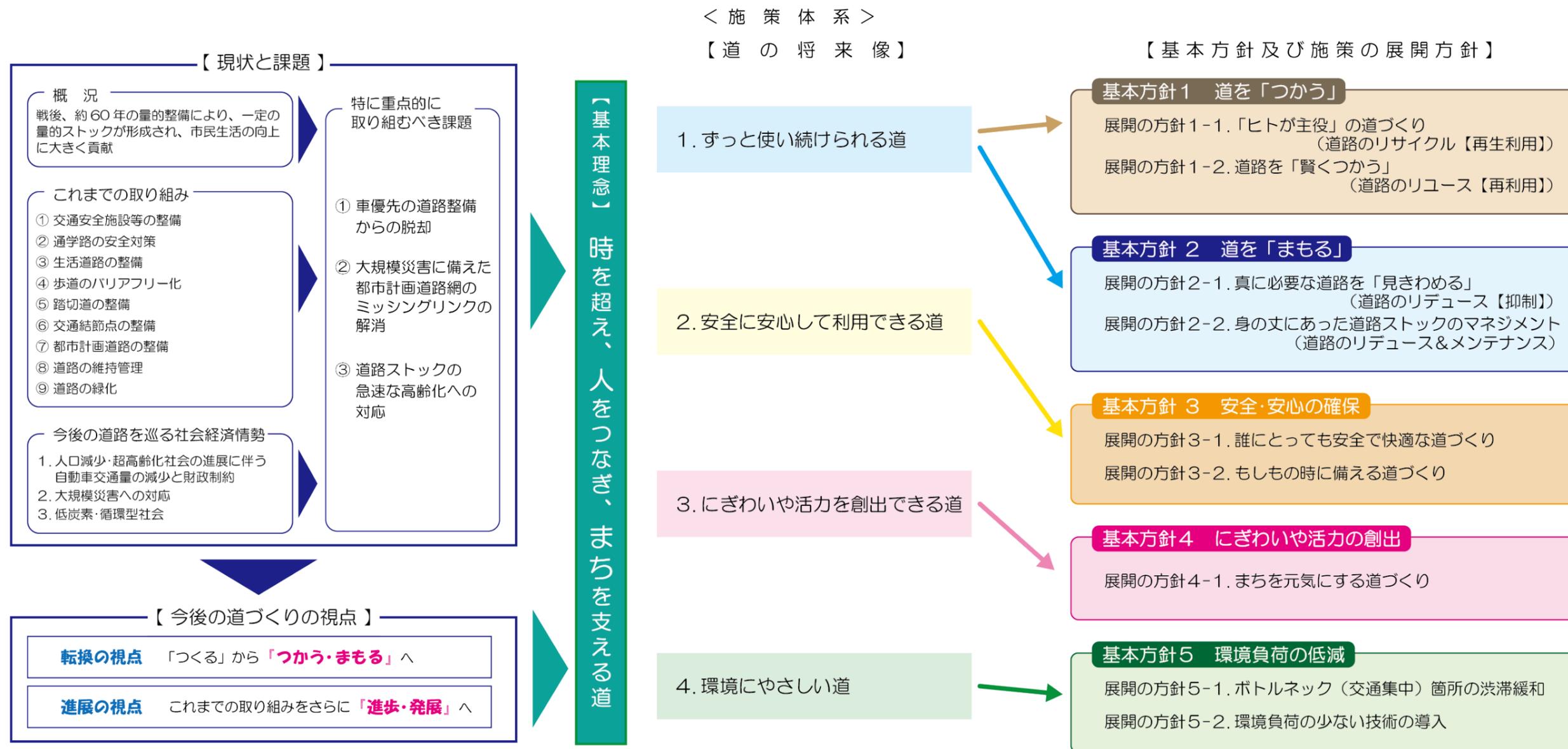
- ・まちの特色や魅力を高めて、まちを元気にし、にぎわいや活力を生み出す道

④ 環境にやさしい道

- ・渋滞などによる温室効果ガス排出量が削減され、施設の省エネ化や緑化が図られた、環境にやさしい道

3. 実現に向けた施策体系

「時を超え、人をつなぎ、まちを支える道」の基本理念のもと、4つの道の将来像「ずっと使い続けられる道」、「安全に安心して利用できる道」、「にぎわいや活力を創出できる道」、「環境にやさしい道」を実現するために、“道を「つかう」”、“道を「まもる」”、“安全・安心の確保”、“にぎわいや活力の創出”、“環境負荷の低減”を基本方針として、基本方針毎の施策の展開方針に基づいて、今後の道づくりを推進していきます。



道づくりの3R

環境分野において、循環型社会^{*})を形成していくための政策に、3Rというものがあります。

- ・リデュース (Reduce) 【抑制】：物を大切に使いごみを減らす
- ・リユース (Reuse) 【再利用】：使えるものは繰り返し使う
- ・リサイクル (Recycle) 【再生利用】：ごみを資源として再び使う

明石市では、道づくりにも 3R の考え方を取り入れます。

- ・リデュース (Reduce) 【抑制】
財政制約が一段と厳しくなる中、今後、新規路線への投資の制約を受けざるを得ない状況となることから、道路整備に対するニーズを踏まえ、その必要性を具体的に見極めつつ、真に必要な道路の整備を進める。
- ・リユース (Reuse) 【再利用】
今ある道路を上手に賢く使うことで、「新たにつくること」から「今あるものを活かすこと」への転換を図り、道路の機能を使い尽くす整備を進める。
- ・リサイクル (Recycle) 【再生利用】
自動車へ優先的に配分されてきた道路空間を多様な利用者に再配分することによって、多様な利用者が安全・安心して共存できる道路空間の形成を図る。

これからの道づくりをこの 3R の考え方を基に進めていきます。

